

8.20 広島八木災害報告（第 172 報）

2020.8.20

平成 26 (2014) 年 8 月 20 日、当地区に起きた大災害のことを忘れることが出来ません。

当日の前夜から想像を絶する大量の雨が滝のごとく降っていました。あとで聞きますと、大雨前線がこの地に停滞していたという話です。当地区の地層は花崗岩で、上層部は砂と石ころでできています。保水力が全くありません。山に溜まった水は杉や雑木、竹をそのまま巻き込んで住宅地に流れ込んできました。

8 月 20 日、午前 3 時過ぎでした。真っ暗闇の中での被害でしたので、一歩も屋外に出ることが出来ません。夜が明けて窓の外を見ると、泥水と近所の建物の切れ端が窓に突っ込んできている、自宅の床上に水が入っているなど、想像を絶するような光景でした。まず、家族 7 人の安否を確認して、愛犬が活着ていることも確認して、その後の対策を考えていました。

その後 6 年経って、やっと私の住居も元に戻りました。しかし、周りの土地は庭木や野菜を含めて全く栄養分が流れてしまっていて育たなくなりました。それも、皆さんの努力で少しずつ回復しています。

今年は畑になすび、きゅうり、トマト、とうがんも収穫できました。その日から 6 年経った今日、最も被害の大きかった八木 3 丁目で、当時亡くなった 77 人の方々の慰霊祭が行われます。私の住んでいる部落でも小さな慰霊碑を作りましたが 12 人の御霊が入っております。

一方、土砂災害の予防対策は見た目では進んでいるように思われますが、昨日の新聞報道などでは、かなり遅れがあつて不安な毎日です。

最近の新型コロナの流行や広島・岡山・熊本・関東での水害など、なんだか気候のリズムがくるってきたような感じがあります。

私達は、多くの知恵を集めてこれらの災害の予防に努力していかなければなりません。

当地区の 77 名の御霊のご冥福をお祈りいたします。

合掌

2020.8.20.11 時

桑原医院 桑原正彦